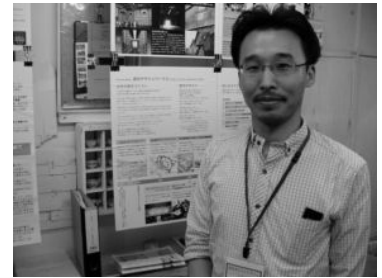


すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

人と情報が交錯する拠点をまちにつくろう 『特定非営利活動法人 都市デザインワークス』

8年前から市民提案型のまちづくりに取り組んできた都市デザインワークス。市民と行政と民間企業とともに新たな都市づくりの実現に向けて、30年後の仙台の街の姿を提示し、実践を積み重ねています。今、その先に向かっているのか。「仙台まちづくりカフェ」※の会場で、代表理事の榎原進さんにお話を伺いました。



▲ 代表の榎原進さん

都市デザインワークスが目指すべき地点。それは、仙台に関するまちづくりの情報や人が集まる「仙台都市デザインセンター」をつくること。

このセンターは市民が気軽に立ち寄れるよう商店街の一角に位置するのが理想で、そこに行くと仙台の街の変遷や現状などを絵図や模型などで視覚的に確認でき、今後どういうふうに変わっていくのか、あるいは、みんなはどう変わって欲しいと考えているのかをつぶさに知ることができる場。もちろん、地域の悩みやお困り事への相談にも対応してくれます。

運営はまちづくりNPOが中心になり、行政、民間企業も携わって、自分たちの利益だけではなく、街の全体のメリットになるようなまちづくりを進めていく拠点として考えているそうです。これはまさに、今年2回目の開催となる「仙台まちづくりカフェ」が発展した形なのです。こう考え到るまでに、どのような思考のプロセスと実践の積み重ねがあったのでしょうか？

※「仙台まちづくりカフェ」:まちづくりについて、“人と人が出会い情報が交わされる場”(=カフェ)を仙台につくろうと、都市デザインワークスを含む、まちづくりNPO8団体で運営する、壱式参横丁(仙台市青葉区)に期間限定でオープンするコミュニティスペース。2007年度から試みられている取り組み。



▲ 仙台まちづくりカフェ2008

● ネットワークをつむぎながら

都市デザインワークスの発起人でもある榎原さんは、元々、東北大学の都市デザイン研究室に在籍しながら、仙台のまちづくりに関わっていました。そんな時、“まちづくり勝手案～ ゲートタウン八幡(以下、勝手案)”という活動に参加することになったのです。これは、大学の研究者、NPO、行政、コンサルタントが集まってできた“勝手連 仙臺まちづくり応援団”というグループの活動でした。勝手案は、仙台の中で応援する地区(当時は、八幡地区)を勝手に決めて、勝手にまちづくりの提案をしていこうというものだったそうです。この活動を通じて築いた人的ネットワークやまちづくりに携わる楽しさが、現在の都市デザインワークスの活動の基礎になっているといえます。

● 30年後の仙台を思い描いて

都市デザインワークスとして、一番初めに取り組んだものが、“仙台都市デザインマスタープラン”。杜の都・仙台の街は、どのように誕生し、時代とともにその姿をどう変えてきたのか、仙台の位置付けと歩みを、地図や図表を駆使しながら市民に分かりやすく情報提供しています。加えて、都市デザインワークスの都市づくりの理念や仙台に対する想いを表わそうと、30年後の仙台の姿を提言しています。

また、市民を対象に取り組んでいるのが“杜の都ガイドツアー”(以下、ガイドツアー)です。この事業は、青葉山をはじめ広瀬川を軸に広がる緑地をニューヨークのセントラルパークに見立てた“せんだいセントラルパーク構想”や、“仙台都市デザインマスタープラン”などの現地調査や資料を読み解く中で、杜の都・仙台には、まだまだ知られていない魅力がたくさんあることに気付いたことがきっかけになっています。

団体紹介

特定非営利活動法人 都市デザインワークス

市民提案型まちづくりに取り組む専門集団。市民の目線でまちの基本情報を提供し、まちの将来像を描き、その実現に向けて市民・行政・企業の調整を行います。

<団体連絡先>

〒984-0065

仙台市若林区土樋13-3

TEL 022-264-2405

E-mail info@udworks.net

http://www.udworks.net/



お知らせ

▲ 杜の都ガイドツアーの様子

「杜の都ガイドツアー～いざ！仙台城へ」を開催

■日時：2008年10月11日(土) 9:00～12:30 ■集合：仙台

駅スタンドグラス前 ■募集：先着順25人/参加費3,000円

その魅力を広く市民に伝えることで、仙台の街やまちづくりに関心を持ってもらいたいという想いがあったそうです。専門のガイドと一緒に街を歩きながら、見慣れた風景に潜む歴史遺産や景観資源など、普段の生活で見過ごしがちな杜の都の魅力を発見できると、参加者からは好評です。

ガイドツアーで工夫しているのが“マイマップづくり”。ツアー後、参加者に地図を手渡し、ツアーで発見したお気に入りの場所などにアイコンシールを貼ってもらうという作業です。作業を通じて参加者同士の会話もはずみます。参加者全員の“マイマップ”をパソコン上で重ねてみると、参加者の新たな発見や興味がどこにあるのかが一目瞭然。こうして集めたデータは、まちづくり提案の材料になっています。

この一連の取り組みが高く評価され、2006年の日本都市計画家協会賞を受賞しました。

● 次なる課題は企業との関わり

このような様々な実践の積み重ねの中で、NPOや行政との関わりが徐々にできてきた都市デザインワークス。「仙台まちづくりカフェ」も8つのNPOとの連携で運営しています。行政と業務委託などの関係も築くようになってきました。

ただ、まちづくりにおいて大きな主体の1つである企業との関係をどう築いていくか、この点に次なる課題が潜んでいるようです。短期的な事業性を優先する企業の建設活動と、すぐには成果が得にくいまちづくりを結びつけること。都市デザインワークスは、その接着剤、時には潤滑油となれたら面白いと考えているようです。

また、市民＝生活者の新たなニーズを掘り起こし、そのニーズを、民間企業の採算性を確保しつつ、まちづくりを通じてどのように実現するかを考えていく。<仙台都市デザインセンター>は、まさにその拠点になるのです。

● 継続は力なり、まだまだ続けないと…

法人認証を受けてから5年が経過した都市デザインワークスですが、まだまだ悩みや苦労は尽きません。「都市デザインワークスという組織自体があまり認知されていないと感じています。私たちを知ってもらい、活動の輪に加わってもらうには、これからも地道に活動を続けていかなければいけないと思っています。」と、榊原さん。

● サポセンにはマッチング力を！

設立当初からサポセンのレターケースを借りたり、書籍の委託販売を利用したりするなどサポセンのサービスを利用してきた都市デザインワークス。目標を明確に描いている団体がゆえに、期待することは明確です。「サポセンには、コーディネート力、マッチング力みたいところを強く望みます。地域の困り事の相談があったとき、その解決のためにはあそこの団体が適任だといって、地域とNPOをマッチング。さらには、両者の関係づくりもサポートして欲しいですね。」と期待を込めて話してくださいました。

● 取材を終えて

今回の取材を通して、特に印象に残ったことがあります。“人と情報が交流する場”が必要だということです。近年<コミュニティ>を冠する場所に注目が集まっているようです。コミュニティ・カフェや、コミュニティ・シネマなどで。人々がいかに自分たちの街に関わっていかを求め、その模索が始まっています。都市デザインワークスの実践に希望を持ちました。

(担当：大石 俊輔)